実際保育に当つて一年

上山照子

実社会に出る事は、本当に嬉しかった。赤い屋根、白い壁！　路に面したお花畠には早咲きチューリップが、小さな蕾をつけていた。子供の絵が、開かれた窓から覗いていた。辺り一面、楽園のような香が漂っていた。

〃これが、私の勤める幼稚園だ、私の胸は破ち切れるばかりに、脹むのでした。

あれから、そろ〳〵、一年になるとは！

康孝ちゃん、どんな子かしら、雅子ちゃん主事先生が、しっかり者ですよ、と繰返し言っていられたが、どんな子かしら……

子供を迎える前の晩、私は仲々、寝つけないのでした。

四月九日から、五十人の幼児を抱えて、私の保育生活が、始りました。ところが、まだ保育のほの字も分らない。その翌日、私は、思わぬ珍事に出会ったのです。

遊戯室で、二組の年長組が、K先生のピアノに合わせて、上に下に、可愛い手を振って蝶々になって、飛んでいました。その時、背の高さが、子供の二倍もあるような、けれど真白いエプロンを拵け、ハンケチを胸にさげて、幼稚園児に仮装したような立派な紳士が十人程、ドヤ〳〵入って来ました。それは、主事先生のご紹介によると、かねて聞いていた。市川市長さんを始めとした。市川の名士達の一日入園の姿でした。

例の老児さん方も、恥かしそうな顔して、子供達の間に入り、太い腕を上に下に、重たそうに振って、蝶々になって飛びました。子供達はキャ〳〵、大喜び！

〃さあ、お花にもなりましょう。蝶々さんが、密を吸いに参りますよ〃

老児さん方も、大きな腰をどっかりと低くして、大きなお花を作りました。新聞社のカメラ班が、パチリ〳〵。

場に立たされた私は、一人前の、幼稚園の先生気取りで、名士の方々を誘導してしまって、こんな愉快な事はありませんでした。

けれども、こんな風に愉快に過したのは、ほんの束の間、それからは、毎日、苦しい日が続きました。子供達も、私も、すぐには、幼稚園の生活に慣れませんでした。特に、一人の男の子が慣れにくゝ、約一ケ月半、私は本当に困ってしまいました。

玄関で、〃帰る〳〵〃と幼稚園中に聞えわたるような大声で泣いたり、地団太ふんだり大騒ぎしましたが、半月程にし、やっと、部屋に入るようになりました。ところが、お集

りの時等、全身緊張の塊となって、慣れない手でオルガンを弾いていると、突然、〃帰る帰る〃と例の調子で泣き出すのです。〃先生泣いてるよ〃子供が走って来て、私の腕を引っ張る。〃お悧口さんね、泣かないのね、一生懸命、なだめていると、〃先生、ぶつんだよ〃と子供が口々に何か言う。机を叩く、奇声をあげる、女の子が泣き出す、私はどうしてよいか分らず、Tちゃんの手をひいて、主事先生の所へ、助けを求めに行くのでした。帰ってみると、男の子が子供の頭を、ポカポカ叩いて歩いている。つかみ合いをしている泣いている子がいる。

〃お席に戻りましょう！　静かにしましょう！〃　どんなに声を張り上げても、私の声等、通る筈がなかった！

ぐっと、胸が、こみ上ってくるのでした。

この頃の私には、まだ、子供達の行動を、規律的に導く力など、全くありませんでした。クレヨンやお弁当を持って来る時、うがいをする時、私は、ひき起された大変な騒ぎを見て、初めて、〃しまった〃と思い、なすべきだった事に気が付くのでした。

私の組の騒々しさ、規律の無さは、幼稚園中、有名になってしまいました。その騒ぎを見る度に、脹れ上った私の胸は、段々、萎んで、遂に、ペシャンコ、になってしまいました。けれど、このような騒ぎの中から、私は集団生活の規律の必要を、身をもって体験したのです。

それでも、一学期が終る頃には、私も、保育に大分慣れ、子供達も、幼稚園生活に慣れて、行動も一応、規律的になって来ました。

×　×　×

夏休みは、勉強のよい機会でした。

私は、一学期の保育を、いろ〳〵どふり返ってみました。沢山、問題にぶつかりました。固定してしまった絵の事も。一日中、無表情な顔して、傍観しているM子ちゃんの事も。乱暴なKちゃんの事も。私は、規律の事や、ピアノの下手な事ばかり気にして、子供達の生活を、豊かな、充実したものにするよう、努めていなかったではないか！　一人一人の子供を、じっとみつめていなかったではないか！

新たな期待を以って、第二学期を迎えました。今学期は、出来る限り園外保育もして、豊かな自然にふれるようにしょう。言語に関しても、童話や紙芝居を、与えるばかりで無く、子供達自身が話す事の指導にも、多いに力を入れよう。問題のある、M子ちゃん、E子ちゃん、Kちゃん達も、じっとみつめて、適切な指導をしよう。私は胸の中で、いろいろ、考えたのでした。

行事の多い秋！　動物園への遠足も、運動会も、大変ではあったが楽しかった。けれど私には、月の末に行った。虫取りの園外保育が、ほんの三十分ばかりだったが、一番、楽しいものでした。

片面を丸くくり抜き、セロハンを貼ったハトロン紙の袋を作り、各自、それを持って、目的の野原に向いました。そこ迄、子供の足で、十二分。途中の踏み切りや、国道では、随分、ハラ〳〵しましたが、無事に、野原に着きました。

話しに聞いた通り、イルワ〳〵、子供の大

軍に、昼寝のひと時を急襲された虫共、びっくり仰天！　ピョン〳〵〳〵、草の間から、飛び出して来ました。〃つかまえたよ！
先生、袋開けて！　子供が叫ぶ、〃先生、先生、袋！　袋！　バッタだよ！〃子供達は虫の大軍に逆襲されて大騒ぎ。洋服にとまる髪の毛にとまる。〃いたゝゝゝ〃かまきりに咬まれた先生も、思わず大声をあげる。
本当に、楽しかった。生まれて二十年、その間ずっと、東京の町の真中で育った私は、虫取りの楽しさなど、全く知りませんでした。時間さえあれば、もっと〳〵、してい度い位でした。
例のM子ちゃん、近頃では、私にお話するようになり、又、おすべり台に乗って、遊ぶようにもなって、幾分、顔が生々として来たようです。〃帰る〳〵〃と泣いて、慣れない私を困らせたTちゃん、最近では、〃大地饅頭〃
――土のお団子の事――作りに予念がありません。
こうして、私も、最近、少しづつ、保育の楽しさが、分るようになって来ました。
けれど、道は遠く、私の実際の保育は、まだ〳〵、貧弱で、子供達の生活を、生々とした。豊かなものにしてはいません。でも、私は、今日よりは、明日を、今年よりは来年を……。
と、自身自分に期待しているのです。
先日、入園したばかり、と思った子供達も程無く、小学校に行くようになるのだ。〃帰る〳〵〃と言って、慣れない私を泣かせたあの子も、年中フラ〳〵部屋を歩き廻るあの子も、鼻をならして甘えるあの子も……。みんな、学校へ行くんだわ。学校に入っても時々、思い出して、幼稚園の私の所へ、訪ねてくれるかしら……、その時、〃先生、ピアノ、随分、間違えたね〃なんて、言われないかしら……。

（市川学園幼稚園）

（11頁より）
豊かな情緒、幻灯や映画、しかも、その一こま〳〵に僕達私たちが入っている自作のスライドを取入れて生々しい体験を語り合うために視聴覚設備を思い切って施しました。手洗所や階段のおどり場に立てば自分の身なりを映して、正しく、美しくするよう、大鏡を配しました。
壁の色、螢光灯のうつり、朱塗りの階段の手摺り柔く温みを感ずる紘壇の代りに赤みを含んだリグノイドのスローブ、便所というより近代建築の象徴に応わしい高級バルコニーの憩いの場所を思わせる、きれいで、明るいところにしたことなど童心の夢を追う試みであります。敷地の制限は庭園遊び場が思うように取れませんが、幸い近々園舎につゞく埋立地が小公園に予定されていますので、生垣、芝生、庭苑、池、小鳥、小屋ジャングルジム、シーソー、太鼓梯子辷り台等の遊具を備えて、園児の教具教材を豊富に盛り、園児を美しく丈夫に育てるため植物以上尊くも豊穣な畠となるよき環境を設定することを楽しみに努力していきたいと思っています。